

教職員自己紹介

有田 五次郎 (ありた いつじろう)

知能情報学科・教授

1963 年、九州大学工学部電子工学科を第 1 期生として卒業しました。第 1 期生は先輩もおらず、実験設備などもまだ不十分でいる苦勞することがありましたが、非常に多彩な人材が集まったクラスで、「我々が学科の歴史を作るのだ」という意識のもと、大変楽しく充実した 4 年間を過ごしました。1965 年、同大学院工学研究科修士課程を修了し、学内計算センターであ



る九州大学中央計数施設に講師・プログラム主任として任用され、38 年にわたる大学教員生活のスタートを切りました。この時代は、日本における人工知能の研究の萌芽期であり、実用的な計算機の生産が始まった時期です。実用的な計算機といっても、今の PC に比べると性能は 1/100 以下、価格は数 100 倍というものでした。

大学院修士の時期には文脈自由言語とか機械翻訳のような人工知能の理論を勉強していましたが、当時中央計数施設におられた現学部長の牛島先生に誘われて、中央計数施設で導入する計算機のソフト作りを手伝うことになりました。これを通して、理論は必要であるが理論だけではだめである、動くもの、人の役に立つものを作ることが重要であるということを知りました。以後一貫して、計算機のハード、ソフトの教育研究、計算機利用環境の整備などをやってきたことを考えると、大学時代に会おうもの、会おう人の重要さを感じます。

以後の経歴は次の通りです。

- 1968 年 九州大学大型計算機センター講師
- 1972 年 九州大学工学部情報工学科講師
- 1984 年 九州工業大学工学部情報工学科教授
- 1988 年 九州工業大学情報工学科知能情報工学科教授
- 2003 年 九州産業大学情報科学部教授

この間、九州大学大型計算機センター設置、九州工業大学情報工学科設置、九州工業大学情報科学センター設置、九州工業大学生命体工学研究科設置などに関わり、最後にまた牛島先生に誘われて、九州産業大学情報科学部の設置に参加して、今年赴任してきました。このように、私が勤務した場所は、九州工業大学情報工学科を除いて、すべて設置計画に参加し、赴任時は 1 期生が 2 期生です。

1 期生、2 期生はその組織の歴史を作る立場です。苦勞も多いけど楽しみもあり、やりがいもあります。情報科学部 1 期生、2 期生の諸君の、学業・サークル・社会活動・遊び、すべての面でのがんばりを期待します。

花野井 歳弘 (はなのい としひろ)

知能情報学科・助教授

出身は千葉県。本家の古い民家 (江戸時代初期) が、野田市清水公園に重要文化財”旧花野井家住宅”として保存展示されている。(インターネットでも見られます) 花野井姓は全国的には非常に少なく、この本家の別れだけではないかと考えています。

1966 年東京工業大学、1968 年同学修士課程を卒業。日立製作所に入社。以後同社および関連会社に勤務し、工場での設計、SE、営業など、企業の第一線で勤務してきましたが、対象製品は一貫して光学文字読取装置 (OCR) を担当してきました。

OCR は、大学入試の採点・履修届けなどに採用されているため、聞き覚えがあると思います。小さいながらも非常に複雑なシステムで、装置を構成するために必要な技術は多岐に渡っています。しかし、小さい装置のため研究開発人員は、あまり多くなく (ピーク時で 100 名) 装置をまとめるためハードウェアのみならずソフトウェアや認識アルゴリズム、アプリケーションなど、必要に迫られ多岐にわたる技術分野に携わってきました。ハードウェアでは、トランジスタ論理時代から LSI 時代まで経験。中核となるプロセッサは、マイコンのない時代のため数世代に渡り独自の専用プロセッサ (専用言語、コンパイラ、OS もいっしょに) を開発。また、装置の価格・性能を左右するスキャナでは、フライングスポット、レーザー、CCD など部品の進歩に対応して各種実用化してきました。

ソフトウェアでは、文字認識プログラムから、アプリケーションプログラムまでを。変わったものでは、マイクロソフト社の EXCEL のアドインソフトとして”OCR for EXCEL”も開発。

また、文字認識を実用化するため、認識精度向上のための研究は継続的に数十年携わってきました。実用化のため、通称”もぐらたたき”と揶揄される地道な作業を繰り返す。また、近年では SE として、基幹デバイスの OCR と、ネットワーク技術と組合せて”集中入力センタ方式のイメージントリシステム”の構築を行ってきました。以上の研究成果で特徴的なことは、約 70 件の特許件数かも知れません。

大学での講義は初めてですが、実務経験を生かして、現在の厳しい社会状況に必要とされる人材の育成、特に、単なる知識、テクニックのみではない”原理に基づいた応用力”のある柔軟な考えを持った人材の育成、また、勉強も興味をもてなければ身につかないので、わかりやすく面白い講義を目標としております。

